

### 3. 2013年度 初等カリキュラム開発講座 教員活動状況報告

#### 朝倉 淳 (教授)

1. 教育：生活科関係 総合的な学習関係 保育内容論（人間関係） 体験型海外教育実地研究ほか
2. 研究：「教育実習指導による指導教員の成長に関する研究－幼稚園教育実習における指導教員の成長に関する研究－」, 『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第42号, 2014年3月, pp. 217-222 ほか
3. 社会貢献：
  - ・日本生活科・総合的な学習教育学会 常任理事 副会長
  - ・日本NIE学会 常任理事 運営委員長
  - ・日本教育大学協会 生活科・総合的な学習部門 代表
  - ・日本教育公務員弘済会広島支部 教育研究物審査委員会 委員長
  - ・明日の三次教育創造懇話会委員長, 研究開発学校運営指導委員
  - ・研究会・講演会・セミナー・研修会等の講師 ほか

#### 伊藤 圭子 (教授)

1. 著書
  - ・生きる力をそなえた子どもたち－それは家庭科教育から－, pp. 30-33, 学文社
2. 論文
  - ・教員養成課程学生における家庭科（食生活内容）に関する基礎知識の定着－中学生と比較して－, 学校教育実践学研究第20巻, pp. 153-160, 共著.
  - ・新学習指導要領の下での授業実践－生活課題を問い直す家庭科ジレンマ教材の開発－, 学部・附属学校共同研究紀要 (42), pp. 223-228, 共著.
  - ・Cualidades y Habilidades Profesionales Requeridas para los Maestros con el Enfoque del Mejoramiento de la Capacidad Docente, 広島大学大学院教育学研究科紀要. 第一部, 学習開発関連領域 (62), pp. 19-28, 共著.
3. 社会貢献等
  - ・日本家庭科教育学会理事

#### 植田 敦三 (教授)

1. 論文
  - ・「数学教育における価値についての国際比較調査「第三の波」(1)－全体的傾向および集団間の比較考察－」, 数学教育学研究, 19, 2, 2013, pp. 127-140, 共著
2. 学会発表等
  - ・全国数学教育学会第37回発表会シンポジウム, 「日本の数学教育における「価値」」, シンポジスト. 「日本の数学教育における「価値」」, 数学教育学研究, 19, 2, 2013, pp. 203-206, 共著
3. 社会貢献等
  - ・第67回九州算数・数学教育研究（鹿児島）大会 小学校部会講演「これからの社会に求められる算数教育－現在・過去・未来－」

木原 成一郎 (教授)

今年度は「体育授業に関する教師の力量形成」を主なテーマとして研究を行った。研究実績として、学術論文「小学校における体育授業の力量形成を促す現職研修に関する研究」『学校教育実践学研究』第20巻, pp. 115-124. 共著, 「小学校体育科のボール運動の授業における学習集団の形成過程に関する事例研究」『教育方法学研究』39巻, pp. 83-94. 共著, そして研究報告「誌上対談 若手教師の成長を妨げる研究授業」『体育科教育』第61巻, 第6号, pp. 10-15. 共著, 「海外の現職研修に学ぶスコットランドの現地調査から」『体育科教育』第61巻, 第6号, pp. 24-29. 共著, 「運動の相互観察で子どもにどのような能力を育てるのか」『学校教育』第1158号, pp. 32-37, を公表した。学会発表では, 日本スポーツ教育学会第33回大会にて口頭発表を行った。また, 科研費による「体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムの運用と改善」を継続して行っている。社会貢献では, 平成25年度 広島県小学校教育研究会夏季体育実技研修会を企画, 実施した。また, 日本体育科教育学会理事長として学会運営に携わっている。

木村 博一 (教授)

1. 著書

- ・臼井嘉一監修『戦後日本の教育実践—戦後教育史像の再構築をめざして—』317頁, 三恵社, 共著。

2. 論文

- ・「リスク社会における社会科のあり方(存在意義)を考える—シンポジウムの趣旨とまとめ—」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第119号, pp. 3-12, 単著。
- ・「社会科の授業にどう向き合うか—より多くの教師に社会科の魅力を伝えるために—」広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』第1151号, pp. 6-11, 単著。

3. 学会発表等

- ・韓国社会科授業学会第3回研究大会「日本における小学校社会科授業研究の課題と社会科教育研究者の役割」招待講演, 2014年1月

権藤 敦子 (教授)

サバティカル研修により東京藝術大学大学院音楽研究科で国立大学等研究員として研究に従事, 博士(学術)の学位取得(論文題目「唱歌教育期における高野辰之の音楽観—日本の音楽と教育との接点をめぐって」)。執筆は, 「高野辰之と東京音楽学校(2)—著述と作歌を中心に—」(『音楽教育研究ジャーナル』第40号), 「民謡としての「わらべうた」と創造的な音楽活動の関連性—高野辰之『民謡・童謡論』(1929)をてがかりとして—」(*Journal of Creative Music Activity for Children*. Vol. 2), 「小学校音楽科における民俗音楽教材化の史的課題—ハンガリーの現在を参照して—」(『初等教育カリキュラム研究』第2号), 「初等教育における音楽学習過程の検討—ブータンの民俗音楽をてがかりに—」(『広島大学大学院教育学研究科紀要』第一部第62号), 「音楽科の特性に応じた思考を育むカリキュラムの開発Ⅱ—小学校低学年を中心に—」(共著)(『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第42号), 東京藝術大学附属図書館貴重書展カタログ(共著)。日本音楽教育学会倫理綱領作成委員会委員長, 日本民俗音楽学会理事, 調査研究委員。

柴 一実 (教授)

1. 論文

- ・「戦後理科教育改革関係資料の研究 (IX)」『広島大学大学院教育学研究科紀要・第一部』第 62 号, pp. 57-66, 単著

2. 学会発表

- ・第 63 回日本理科教育学会全国大会, 「戦後における理科教育の革新 (13)」, 口頭発表

3. 社会貢献等

- ・日本理科教育学会 評議員
- ・日本理科教育学会 『理科教育学研究』編集委員会委員

難波 博孝 (教授)

1. 著書

- ・『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』(「読むことの学習指導実践史研究」(pp. 185-192)) 学芸  
図書

2. 論文

- ・「リテラシーは「他」を排除する : 自己批評のための「戦略的同化」と「自己批評的流用」へ」  
(pp. 57-67) 『日本文学』VOL. 62 No. 1 日本文学協会
- ・「日常の論理」の教育のための準備－論証／説明／感化の論理の区別とその内実－」(pp. 49-61)  
『初等教育カリキュラム研究』第 2 号 広島大学教育学部初等カリキュラム開発講座

3. 研究発表

- ・「現行学習指導要領及び教科書の説明文教材に関する学習目標の理論的研究」第 124 回 全国  
大学国語教育学会
- ・言語教育と生きること(ラウンドテーブル) 第 125 回 全国大学国語教育学会

望月 てる代 (教授)

1. 論文

- ・「教員養成課程学生における家庭科(食生活内容)に関する基礎知識の定着－中学生と比較し  
て－」『学校教育実践学研究』第 20 巻, pp. 153-160, 共著
- ・「新学習指導要領の下での授業実践－生活課題を問い直す家庭科ジレンマ教材の開発－」『学部・  
附属学校共同研究紀要』第 42 号, pp. 223-228, 共著

2. 社会貢献等

- ・「作って! 食べよう! 弁当 DAY! ～ひがしひろしま食材さがし～東広島市中学生弁当コンテ  
スト」審査委員長

山崎 敬人 (教授)

1. 論文

「模擬授業による理科の授業力量の形成に関する研究－教師志望学生への質問紙調査から－」  
『学校教育実践学研究 (広島大学大学院教育学研究科)』, 第 20 巻, pp. 79-89, 共著

2. 学会発表

「小学校教師の理科授業に関する力量形成－教職 10 年目までの追跡調査事例から－」, 日本理科教育学会第 63 回全国大会 (2013. 8. 11)

3. 社会貢献等

日本理科教育学会理事・評議員

4. 科学研究費補助金による研究

「理科教師の学びと成長のプロセスに即した「省察的実践力」の開発に関する研究」(基盤研究 (C)) (研究代表) (H24 年度～H27 年度)

池田 吏志 (准教授)

1. 論文等

- ・「重度・重複障害児の造形活動の指導原理・方法に関する質的研究 (Ⅲ)－ティーム・ティーチングにおける各教員の役割の理論化に向けて－」『美術教育学』第 35 号, pp. 93-106, 単著
- ・「特別支援学校における造形活動の日米比較－ニューヨークでの現地調査を通して－」『IRCN 国際交流情報 (大学美術教育学会発行)』第 9 号, pp. 11-13, 単著

2. 受賞

- ・第 11 回『美術教育学』賞 奨励賞 授与者：美術科教育学会  
対象論文：「重度・重複障害児の造形活動の指導原理・方法に関する質的研究－児童生徒と教員との関わりに焦点をあてた理論的モデルの生成－」『美術教育学』第 34 号, pp. 61-73, 単著

3. 社会貢献活動

- ・第 2 回広島県ジュニア美術展審査員 (広島県立美術館)

大後戸 一樹 (准教授)

1. 研究業績

- ・「体育授業におけるタブレット型端末を活用したグループ練習の実態－グループ練習での学習者の気づきに焦点をあてて－」『学校教育実践学研究』第 21 巻, 共著
- ・「ボールゲームにおける技術指導の系統性誕生：1970 年前後の攻防入り乱れ系ボールゲームの議論に焦点を当てて」『楽しい体育・スポーツ』第 33 巻 7 号, pp. 34-37, 単著

2. 社会貢献等

- ・第 17 回幼小中一貫教育研究会 (附属三原幼・小・中), 東雲教育研究会 (附属東雲小・中), 第 96 回研究発表協議会 (附属小) など
- ・日本体育科教育学会 庶務幹事
- ・第 148 回学校体育研究同志会全国研究大会フラッグフットボール分科会 基調提案「フラッグフットボールの実践課題を考える：盛り込む作業と削ぎ落とす作業」

寺内 大輔 (准教授)

2013年度の活動は次の通りである。論文は共著も含め4本を発表した。そのうちの1本「バレーのみで長・短三音を奏することができるギターチューニングの考案とその可能性」『広島大学大学院教育学研究科紀要第一部62号』は、ギターのチューニングを工夫することによって、すべてのメジャーコードとマイナーコードの指遣いをバレー（左手の指一本ですべての弦を押さえる技法）のみにする方法について述べたものである。音楽表現活動では、1995年に作曲した作品《粘着ー2本のフルートのために》の楽譜がマザーアース社から発売されたほか、新作《地層ーピアノのために》がリーデンローズふくやま芸術文化ホールで初演された。また、即興演奏家として、いくつかの演奏会に出演した。学会では「日本音楽即興学会第5回大会」等で口頭発表を行った。また、日本音楽即興学会の理事長と大会実行委員長を兼務し、広島大学を会場とした大会を運営した。社会貢献では、音楽祭「Creative Music Festival 2013」のオーガナイザーも務めた。ほか、「音楽づくり指導」等をテーマとしたレクチャー、ワークショップ等の講師も多数務めた。

中村 和世 (准教授)

1. 論文

- ・「造形科の指導内容と方法」、『学校教育』, no. 1155, pp. 12-17, 単著
- ・「小学校教員養成のための図画工作科教育法の授業の在り方を考えるー学びのコミュニティを通して実践的省察力と自己成長力を育むー」、『教育美術』, no. 856, pp. 42-43, 単著

2. 翻訳・報告書等

- ・「全米美術教育学会 (NAEA)・前会長ロバート・セイボル教授講演会資料」, 広島大学大学院教育学研究科, 共訳

3. 社会貢献等

- ・第9回尾道市小中学校芸術祭図画美術コンクール審査員
- ・第2回広島県ジュニア美術展 (11月12日), 審査員
- ・大学美術教育学会, 国際交流委員

永田 忠道 (准教授)

1. 論文

- ・中野真志, 藤本勇二, 永田忠道 「『総合的な学習の時間』の現代的諸課題への対応」日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』第21号, 2014年3月, pp. 44-53。
- ・新谷和幸, 中丸敏至, 松岡靖, 沖西啓子, 伊藤公一, 木村博一, 永田忠道 「グローバル社会に対応した国家・社会の構造を認識する社会科授業開発ー附属小学校3校の共同研究の成果としてー」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第42号, 2014年3月, pp. 57-66。
- ・永田忠道 「主権者を育成するための授業研究の復権」広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』第1159号, 2014年2月, pp. 6-11。

2. 学会発表等

- ・永田忠道 「子どもの多様化と多様性による社会認識カリキュラムの再構築ー東アジアと欧州における初等中等教育の比較と歴史をもとにー」全国社会科教育学会第62回全国研究発表大会。

松浦 武人 (准教授)

1. 論文
  - ・「論理的な図形認識を促す算数・数学科カリキュラムの開発」, 日本数学教育学会第46回秋期研究大会発表集録, pp. 29-34, 共著
2. 報告書
  - ・「大学院生によるアメリカの小中学校での体験型海外教育実地研究報告Ⅶ」, 『学校教育実践学研究』第20巻, pp. 161-181, 共著
3. 社会貢献
  - ・全国数学教育学会 幹事長・事務局長
  - ・JICA ザンビア国別研修会講師
  - ・一般財団法人研数学館算数・数学講演会講師
  - ・山口県平成25年度授業改善推進リーダー養成研修講座講師 等

松本 仁志 (准教授)

1. 著書
  - ・『明解書写教育増補新訂版』(全国大学書写書道教育学会, 147頁, 萱原書房, 共著)
2. 論文
  - ・「書写と書道の連携を具体化するために必要な視点とテーマ」(『書写書道教育研究』, 第28号・pp. 75-78, 単著)
3. 社会貢献等
  - ・講演会(公文エルアイエル), 題目「筆順のはなし」, 公文の指導者対象
  - ・全国大学書写書道教育学会・理事, 書学書道史学会・諮問委員, 中国地区大学書道学会・幹事, 全国書写書道教育研究会・副理事長, 日本教科教育学会・理事
  - ・小学校用教科書『小学生の国語』(三省堂, 編集委員), 同『小学生の書写』(三省堂, 編集主幹)
  - ・筆順に関する雑誌取材(光文社)

松宮 奈賀子 (講師)

1. 著書
  - ・『小学校英語教育法入門』, 全201頁, 研究社, 共著
2. 論文
  - ・「大学院生によるアメリカの小中学校での体験型海外教育実地研究報告Ⅶ」『学校教育実践学研究』第20巻, pp. 161-181, 共著
  - ・「外国語活動指導への不安軽減策として教員養成課程に期待される「外国語活動指導のための英語力」育成」『日本教科教育学会誌』第36巻・第1号, pp. 55-64, 単著
  - ・「外国語活動の指導に求められる英語運用能力向上のための試み ―英語スピーチ練習の可能性―」『広島大学大学院教育学研究科紀要第一部(学習開発関連領域)』第62号, pp. 81-88, 単著